



夏まきニンジンの生育期における主な病害虫防除

夏まきニンジン栽培は、主に7月下旬～8月中旬頃に播種して秋冬季に収穫する作型ですが、圃場によっては、ネコブセンチュウやネキリムシ類など土壌害虫による根部被害の発生が懸念されますので、事前に殺センチュウ剤などによる土壌消毒や殺虫剤などを播種前に土壌混和することが必要になります。

茎葉に発生する病害虫として、主に9～10月にかけて黒葉枯病やうどんこ病、軟腐病など、また、アブラムシ類、キアゲハ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウや「シャクトリムシ」などの病害虫が発生し、生育あるいは根部肥大の不良などで、大きな減収を招くことがあります。

黒葉枯病は、ほぼ例年発生がみられますが、特に、晴天と曇雨天が繰り返し経過する年には発病、被害が激しくなる傾向があり、また、軟腐病は、管理作業等での株の傷口や害虫の食害痕などから病原菌が侵入しますので、降雨が続く場合や台風の時などには防除が必要になります。

アブラムシ類は、秋季が温暖に経過したときに寄生が多くなり、新芽や芯葉に寄生すると展開葉の奇形や萎縮をおこします。また、各種のウイルスを媒介するため、発病すると商品価値が低下しますので、十分な注意が必要です。キアゲハなどチョウ目害虫も、食害が激しいと生育や根部肥大の不良を招き、甚だしい場合は商品価値が無くなります。

これら病害虫の発生に十分注意し、早期の発見と適切な薬剤防除に心がけてください。

【防除のポイント】

- 1 黒葉枯病は、密植や軟弱徒長、肥切れ等のときに発生を助長しますので、肥培管理に注意が必要です。
- 2 アブラムシ類やウイルス病の防除として、アブラムシ類の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草を適切に除去し、圃場衛生に努めます。
- 3 キアゲハ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウなどチョウ目害虫は、幼虫の発生や被害を認めたら早めに防除します。
- 4 薬剤防除に際しては下記を参考に、耐性菌や抵抗性害虫の出現を回避するため、ローテーション防除に努めましょう。

表1 ニンジン生育期における主要病害の主な防除薬剤 (令和4年9月12日現在)

薬剤名	黒葉枯病	うどんこ病	軟腐病	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
ベルコートフロアブル	○	○		1,000倍	収穫14日前まで / 5回以内	M7
ダコニール1000	○			1,000倍	収穫7日前まで / 5回以内	M5
ファンタジスタ顆粒水和剤	○	○		3,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	11
シグナムWDG	○	○		2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	7と11
ロブラール水和剤	○			1,000～1,500倍	収穫14日前まで / 4回以内	2
アフェットフロアブル	○			2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	7
カスミンボルドー	○		○	1,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	24とM1
アリエッティ水和剤	○			800倍	収穫7日前まで / 3回以内	P7
トリフミン水和剤		○		3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	3
スターナ水和剤			○	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	31
Zボルドー	○		○	500～800倍 500倍	— / —	M1

注) 表1の分類欄にはFRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ニンジン生育期における主要害虫の主な防除薬剤 (令和4年9月12日現在)

薬剤名	アブラムシ類	キアゲハ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
モスピラン顆粒水溶剤	○	○			4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	4A
マラソン乳剤	○	○			2,000～3,000倍	収穫14日前まで / 4回以内	1B
コテツフロアブル		○	○		2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	13
アグロスリン乳剤			○		2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	3A
カスケード乳剤			○		4,000倍	収穫3日前まで / 2回以内	15
フェニックス顆粒水和剤			○		2,000～4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	28
アクセルフロアブル				○	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	22B
プレオフロアブル				○	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	un

注) 表2の分類欄にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。